

公益財団法人 日本骨髄バンク 第 101 回 業務執行会議 議事録

開催方法:WEB 会議形式で開催

(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

日 時:2025 年(令和 7 年)2 月 14 日(金)17:10~17:40

出 席:岡本 真一郎(理事長)、佐藤 敏信(副理事長)、日野 雅之(副理事長)、石丸 文彦(理事)、
大西 達人(理事)、鈴木 利治(理事)、瀬戸 愛花(理事)、橋本 明子(理事)、
沓沢 一晃(監事)、藤井 美千子(監事)

欠 席:浅野 史郎(業務執行理事)、高橋 聡(理事)、福田 隆浩(理事)、

陪 席:細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)
横田 友子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)
東 史啓(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課課長)

事 務 局:小川 みどり(事務局長兼ドナーコーディネート部長兼医療情報部長)

田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、水口 詞代(広報渉外部長)
荒井 茂(総務部TL)、鈴木 慶太(広報渉外部TL)

(順不同、敬称略)

1 開会

2 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により、本業務執行会議が成立した。

3 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により、業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、岡本理事長が議長に選出された。

4 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第 8 条により、議長及び出席した構成員が記名押印する。岡本理事長、佐藤副理事長、日野副理事長がこれにあたりとされた。

[議 事]

1 協議事項(敬称略)

(1)令和 7 年度事業計画と予算の原案提示

令和 7 年度事業計画の重点部分について … 小川事務局長

普及啓発事業については、30 代以下の若年ドナー登録者をあと 1 万人増やし年間 3 万人にするという目標を掲げている。このためのオンラインドナー登録・登録時 HLA 検査へのスワブ導入を現在準備中。システムの運用及び各種課題の完全解消のためにトライアル 3 を実施し、2026 年度の本格導入を目指す。

海外の先行事例を踏まえ、オンライン本格導入後のドナーリクルート体制の確立を目指す。若年層にフォーカスした登録会については、大学教職員・ボランティアサークルの学生・卒業生などを対象

に、協力依頼・研修を実施し、学生による登録会の開催・運営、後輩に引き継げる仕組みを目指す。教育機関においては、講演できる講師を育成し、職員が同行せずとも開催できる体制を整え、語りべ講演回数を増やす。10代20代限定のボランティアをユースアンバサダーと呼んでいるが、ユースアンバサダーが出身校での登録会や語りべ講演会を調整・開催し、定例化できるように後押し、補助を行う。

SNSの活用について、2025年度は更にFollower数の増加を目指し、応援者を増やす。公式LINE登録を呼びかけるQRコードのドナーカードへの印字が実現したが、それ以降LINE登録者数は順調に増加し、3万人を超えた。リテンションに繋がるコンテンツを、定期的にLINEで発信する。

コーディネート部門について。提供までのコーディネート期間は短縮傾向にあるが、移植を急ぐケースにも対応できるよう、より大幅な改変を視野に入れ取り組んで行く。

リモートの促進については、リモート確認検査の動画改修、その他資料も充実させ、説明にかかる時間の短縮、説明自体の効率化を図る。確認検査にコーディネーターが同行せず、ドナーのみで来院する仕組みを2024年度に整備し、トライアルを実施した。2025年度は手順などを修正しながら、拡大していく。最終同意についても、フルリモート化導入に向けトライアルを実施する。

ジーラスタを導入したが、2025年度は件数が徐々に増えていくことが予想されるため、さらなるフォローアップ体制の強化に努める。

Web問診票、確認検査問診表については、ドナーの利便性向上、調整医師の負担軽減を目指して見直していく。

調整医師については、確認検査を依頼しても、多忙等の事情により引き受けが難しい状況が続いている。病院から独立・開業された血液内科の先生方にアプローチをし、開業医への拡大を図る。調整医師の新規申請について、申請条件自体の見直しを検討していく。

ドナーコーディネート協力医師、判定医師によるコーディネート協力医師会議を不定期で開催し、相互の意思疎通を図り、判定の標準化に努める。

採取ドナーとのHLA適合度を移植前に正確に評価することが望ましいとされているが、採取ドナーの4割程度しかNGSで測っていないという状況があり、移植医にNGS検査の必要性について発信を続ける。

コロナ禍における特例措置として「凍結」を審査のうえ可能としてきたが、凍結の条件を他の感染症の可能性がある場合にも拡大したので、引き続き凍結申請の受付を継続する。2024年の凍結申請は、採取全体の15.6%であった。

ドナーの提供年齢引き下げについて、2024年度に当法人内での意思決定がなされたので、今後は関係各所と調整の上で、引き下げの実現を目指す。

予算について … 田中総務部長

収入について。2024年度はこのまま推移すると採取件数が1030件程の見通しであり、現在の患者登録数も加味し、2025年度予算では採取件数を1030件とした。

寄付金収入については、約1億6200万円を想定。このうち1200万円は患者負担金等支援基金の取り崩し想定分のため、実質的には1億5000万円程の寄付金収入想定。近年寄付金が増加しているため、予算計上金額も上げている。スワブ関連の補助金として約8730万円を計上。

この前提で、経常収益計が約15億6000万円を見込んでいる。前年度予算比で約8000万円増。経常費用は、支出合計で約15億8500万円。こちらは前年度予算比で約9600万円の増加。

支出面の主なトピックとしては、①スワブのトライアル3にかかる費用。②2024年度は休止であったACジャパンの広告が復活予定のため、委託費・ポスターの制作費というのが大きな支出として発生。

③地区事務局の統合にかかる費用として、統合先への引越し費用。統合後の拠点に人・ものが集約されるため、大阪事務所も広いビルへ移転、東京事務所も増床予定。④2024 度を実施したコーディネート支援システム仕様追加にかかる減価償却費が計上されているため、帳簿上の費用として、見た目の赤字額が大きくなっている。

以上のことから、収入と支出の差し引きで、2370 万円の赤字予算となっているが、法人運営上問題はない。

2025 年度特有の支出想定として、経常外費用に特別退職金 2400 万円を計上している。先の理事会で説明したとおり、地区事務局の統合に伴って、退職せざるを得ない職員に対する退職金の割り増し分となる。ただし人数等はまだ確定していないため、あくまで想定の数値を計上している。

(主な意見)

＜岡本＞ これまで理事会に出てきていた将来方向性について、具体的な案として取りまとめ、それに対しての予算付与となる。これまでの議論を実際に現場に移していく、実行していくというフェーズに入ったというご理解を。

(決定事項)

全会一致で可決。次月、成案を提示予定。

2 報告事項(敬称略)

(1)寄付金報告 … 水口広報渉外部長

令和 7 年度 1 月は、1345 件、950 万円の寄付。本年度は AC ジャパンの放映がなく、他方前年度は 12 月にかけてプロモーション露出が非常に多かったことを考えると、AC 広告なしの通常ベースの寄付があったという分析である。

(2)採案件数・患者登録数報告 … 田中総務部長

令和 7 年 1 月の採案件数は、国内 BM63 件、PB18 件、国際 0 件、合計 81 件。今年度は当初予想値 1030 件前後に落ち着く見込み。国内新規患者登録者数は、2015 年 1 月末までで合計 1560 人となっており、昨年度より若干増加しているペース。

(3)調整医師新規申請の報告 … 関移植調整部長

令和 7 年 1 月は、新規申請 5 名、異動・辞退 15 名、現在数 1213 名。

(4)その他(オレンジ 30000 チャレンジについて) … 水口広報渉外部長

プロジェクトオレンジによる「オレンジ 30000 チャレンジ」という取り組みについて。

スワブのトライアル 3 が 2025 年中に始まることを前に、骨髄バンクとユーザーが直接繋がること、繋がっている方を増やすということを目指し、骨髄バンクの公式 X アカウントフォロワー 3 万人を目指す取り組みを 3 月より開始する。

具体的には「X チャリティーチャレンジ」と「ラジオ 100 局チャレンジ」の 2 本の柱。これらの活動の受け皿として特設ウェブサイト制作と SNS 発信をやっていくような形。

サイトでは、いろいろな形で繋がっているようなイメージを展開する。「X チャリティーチャレンジ」は協力者の方々から品物をチャリティーしていただき、フォロー＆リポスト押しキャンペーンに参加した方に抽選でお渡しするといったものを企画。インフルエンサーの方にご協力をいただき、私共がXで投稿、それに対してインフルエンサーが反応していただきつつ、骨髄バンクのアカウントフォローを促すメッセージを発信していただくことを想定。

「ラジオ 100 局チャレンジ」については、鈴木おさむさん、ももいろクローバーZ 高城れにさん、骨髄バンクと縁ある方々のご協力をいただきながら、15 分・30 分のラジオ番組を作り、コミュニティFMを中心に 100 局での配信を目指していく想定。また各ラジオ番組等に働きかけ、番組コーナーに骨髄バンクやユースアンバサダーの方を呼んでいただき、直接ラジオ媒体で語りかけていくというようなことも目指している。

3 月の日本造血・免疫細胞療法学会総会と市民公開講座において大々的にスタートを案内するとともに、サイトをローンチし、SNS 投稿を開始していくスケジュール感。また 2 月中にもラジオの露出があるかもしれないが、それについては適宜ランディングページや公式 X で報告する。